

水稲用一発肥料のプラスチック殻は

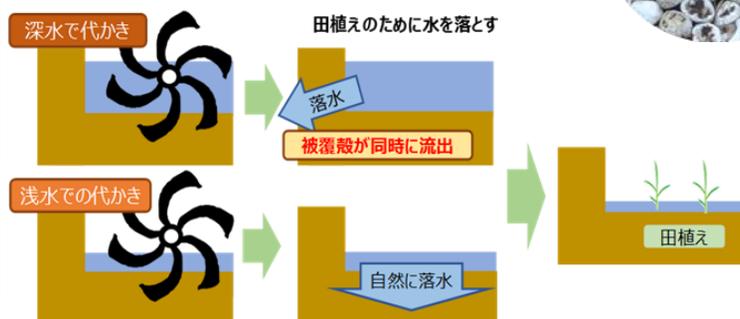
水田から流出させないようにしましょう

水稲用一発肥料は、プラスチック等で肥料をコーティングしているため、水稲の生育に合わせて肥料成分が溶出します。それに伴い、追肥の省力化、施肥量の削減、養分の流出防止などの利点がありますが、一方で肥料成分が溶出した後のプラスチック殻が河川や海へ流出することが問題になっています(代かきによって巻き上げられた殻が移植前の落水時に流れ出てしまいます)。代かき時には下記対策を参考にプラスチック殻の流出防止に取り組んでいただきますようお願いいたします。

1 【対策①】浅水代かき

- 〈均平化〉 入水前に田面はできるだけ均平にしましょう。
- 〈畦畔管理〉 あぜが崩れていないか確認しましょう。排水溝には止水板を設置しましょう。
- 〈入水量〉 大部分の地表が見えるぐらい浅めの入水にしましょう。
- 〈自然落水〉 移植前の落水は行わず、自然落水により水位を調整しましょう。

プラスチック殻



2 【対策②】捕集ネットの使用 ※強制落水を行う場合の対応策です。

- 〈材料一覧例〉 玉ねぎネット、バーベキュー用の網、クリップ、園芸用支柱など 100 円ショップで入手できます。
- 〈設置〉 作成した捕集ネットは水尻に設置しましょう。
(園芸用の柵などをネット前に設置することで、藁詰まりを防ぐことができます。)



3 被覆肥料の殻の流出防止対策動画 ※YouTubeにて対策動画を公開しています。

〈 URL 〉 <https://youtu.be/f686ApBwBMQ>



4 製造メーカー・全農による被膜殻の共同研究・開発について

環境に配慮するため、光や微生物の働きにより土壌中に崩壊・分解しやすくなるように各メーカー工夫をしていますが、分解するまでかなりの時間がかかります。より速やかに分解させる技術の確立を目指し、メーカーと協力して研究開発に取り組んでいます。

■ 営農 NEWS は J A全農いばらきホームページでもご覧になれます。